

## 1 研究主題

## 学び合い、考えを深める児童の育成

～ 活用力の向上をめざす授業づくり ～

## 2 主題・副題設定の理由

学習指導要領が改訂され、「生きる力をはぐくむ」という理念の下、確かな学力を身につけるために、「基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力その他の能力をはぐくむ」ことが総則の中に掲げられている。

石川県は一人一人の児童に確かな学力を身につけさせるために、「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等（「活用力」）を高める」ことを重点課題として取組を推進している。

本校は、平成20・21年度の石川県「活用力」向上推進モデル校の指定を受け、これまで積み上げてきた算数科における学び合いの学習を生かし、活用力の向上をめざした授業のあり方を工夫していくこととし、標記の研究主題及び副題を設定した。

平成20年度「全国学力・学習状況調査」の結果は、算数科のA、B問題とも全国の正答率を上回っていたが、分析すると「自分の考えをまとめて書いたり、分かりやすく説明したりする力や、複数の資料を読み取り情報を選択して活用する力が十分とはいえない」という課題が見られた。そこで、学び合いの授業づくりを中心に、授業を支える力の育成、家庭、小中学校との連携を研究の柱に、算数科において活用力向上のための授業改善に取り組んだ。内容としては、各単元でつけたい力を明確にして、問題や課題設定の仕方を工夫したり、算数的活動を取り入れたりしてきた。

その結果、児童は考えることを楽しみ、様々な考えを学び合うことができ、思考力・判断力の育成につなげることができた。また、「聞く」ことを重点に授業規律の確立に努め、表現する場を授業の中に設定し、自分の言葉で説明することや振り返りを大切にしてきたことで表現力も育ちつつある。しかし、考えを分かりやすく書いたり説明したりする力、情報を選択して活用する力は十分とは言えず、授業展開や評価、児童の変容を見取る方法にも課題が残った。

2年目となる今年度は、研究主題・副題を継続し、活用力の向上をめざすための授業改善の視点を設けて研究を進めていくことにした。

また、今年度の学校教育目標が「生涯をたくましく生きるための心と体、磨かれた知性と豊かな人間性を備えた子どもの育成に努める」と改められたことを受け、算数科を中心につけた力を「生涯をたくましく生きるための能力・態度の育成」につなげることを意図して、「たちばな夢プラン」を設定した。

## 3 研究仮説

授業を支える力の育成と、家庭、保育所・小学校・中学校との連携を図りながら、活用力の4観点を意図した学び合いの授業の改善を進めることにより、児童の活用力を向上させることができるであろう。また、たちばな夢プランを推進することにより、たくましく生きるための能力や態度が身についていくであろう。

## 4 研究の内容と方法

## (1) 学び合いの授業づくり

## ① 活用力の4観点を明確にした単元計画

・「全国学力・学習状況調査算数科」の主として「活用」に関する問題作成の観点を参考にし、本校における算数科の活用力を以下の4観点にまとめた。

## 【活用力の4観点】

【観 察 ・ 把 握】	物事を数・量・図形などに着目して観察し、的確にとらえる力
【情報の整理・選択】	与えられた情報を分類整理したり、必要なものを適切に選択したりする力
【論理的・発展的な思考】	筋道を立てて考えたり、振り返って考えたりする力
【数学的な解釈・表現】	言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて表現されたものを解釈したり自分の考えを数学的に表現したりする力

- ・単元計画において、どの学習でどの活用力をつけるのかを吟味し、活用力向上のための手立てを明確にする。

### ② 活用力を育てる授業の展開

- ・「つかむ」「学び合う」「振り返る」の学習展開を基本とする。
- ・活用力を向上させるための授業改善として6つの視点を設定して取り組む。

#### 視点1 課題の工夫

- ・活用力のどの観点の力を育てることをねらうのかを明確にする。
- ・考えることを楽しみ、学習意欲を引き出す内容を工夫する。

#### 視点2 見通しを持った考え方と思考の焦点化

- ・活用する既習の知識・技能を明確にし、単元計画に明示する。
- ・学習のポイントを掲示するなど、既習を活用できるように工夫する。
- ・教材研究の段階で、何を使ってどう考えさせるか指導の方向性を明らかにしておき、思考の焦点化が図れるようにする。
- ・多様な考えから、よりよい方法、より分かりやすい考え方を追求させる。

#### 視点3 考えさせる場、学び合う場の工夫

- ・ねらいに応じて、ペア学習、グループ学習などの学習形態を工夫し、自分の考えを持てるようにする。また、考えを交流したり、自分の言葉で表現させたりする。
- ・説明の仕方の基本形を指導し、立場や根拠をはっきりさせ、思考過程を明らかにして説明させる。
- ・絵図、式、言葉などを使い、自分の考えを分かりやすく表現させる。

#### 視点4 学習内容の定着を図る適用題の工夫

- ・適用題の時間を確保し、本時の学習内容の活用と定着を図る。
- ・条件を変えたり、日常生活に結びついた問題を工夫したりする。

#### 視点5 振り返りの工夫

- ・授業のねらいに沿い、ポイントを明確にして学年の段階に応じた振り返りをする。
- ・キーワードでまとめたり、自主学習で復習したりしながら確かな学びに結びつける。

#### 視点6 評価の工夫

- ・授業でのノートの記述、適用題、振り返りから評価したり、テストに活用力を問う問題に取り組みせたりし、児童の実態をつかむ。
- ・研究の視点に基づいた授業実践が活用力の向上に結びつけることができたかを授業実践シートをもとに振り返り、授業改善に努める。

○ 学習過程における手立てと授業改善

活用力向上の手立てと授業改善の視点		
つかむ	<p><b>前時までの振り返り</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>既習を振り返ることができる掲示物を工夫する</li> <li>プレテスト、前時までの学習の様子から児童の実態をつかんでおく</li> </ul>	
	<p><b>課題提示</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>活用の観点を明確にする</li> <li>学習意欲を引き出す課題を工夫する 「考える場、記述する場、説明する場を設定した課題」 「既習の内容や経験を生かせる課題」 「生活とつながりのある課題」</li> <li>提示の仕方を工夫する</li> </ul>	<p><b>視点1</b> 課題の工夫</p>
学び合う	<p><b>つかむ・考える</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>問題文を書かせ、情報を整理選択させる</li> <li>既習内容や友達の考えから見通しを持たせる</li> <li>絵図、線分図、数直線、表、式などを用いて、自分の考えを適切に伝えさせる</li> <li>見開き、色分け、箇条書きなどノートの使い方を教える</li> <li>学習形態（ペア、グループ）を工夫し、意見を交流して自分の考えを持たせる</li> </ul>	<p><b>視点2</b> 見通しを持った考え方と思考の焦点化</p>
	<p><b>学び合う</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>説明の仕方の基本形を指導する</li> <li>立場、根拠をはっきりさせて説明させる</li> <li>絵図、表、式などを効果的に利用させる</li> <li>友達の考えを説明させる</li> <li>ゆさぶりをかける発問をして考えさせる</li> <li>より分かりやすい説明の仕方を学び合わせる</li> <li>学習のポイントをキーワード化して提示する</li> <li>多様な考えからよりよい方法、より分かりやすい方法を追求させる</li> <li>友達のよい考えをノートに書かせる</li> <li>学習の過程が見える板書を工夫する</li> </ul>	<p><b>視点3</b> 考えさせる場、学び合う場の工夫</p>
	<p><b>適用題の実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習のまとめを行い適用題を解かせる</li> <li>条件を変えたり、日常生活に結びついた問題を工夫したりする</li> </ul>	<p><b>視点3</b> 考えさせる場、学び合う場の工夫</p>
振り返る	<p><b>振り返り</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>分かったこと、気づいたこと、次への意欲等、ポイントをしばって自分の言葉で表現させる</li> <li>よりよい表現を紹介し学ばせる</li> </ul>	<p><b>視点2</b> 見通しを持った考え方と思考の焦点化</p>
	<p><b>適用題の実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習のまとめを行い適用題を解かせる</li> <li>条件を変えたり、日常生活に結びついた問題を工夫したりする</li> </ul>	<p><b>視点4</b> 適用題の工夫</p>
	<p><b>振り返り</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>分かったこと、気づいたこと、次への意欲等、ポイントをしばって自分の言葉で表現させる</li> <li>よりよい表現を紹介し学ばせる</li> </ul>	<p><b>視点5</b> 振り返りの工夫</p>
	<p><b>評価</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>適用題や、振り返りで活用力の定着を把握する</li> <li>テストに活用力を評価する問題を入れる</li> <li>授業実践シートで振り返り、授業改善につなげる</li> </ul>	<p><b>視点6</b> 評価の工夫</p>

(2) 授業を支える力の育成

① 授業規律の確立

- ・ 日常の学習活動において「聞く」ことを中心に「話す」「書く」について学年の発達段階を踏まえた指導を進める。

## ② 基礎的・基本的な知識・技能の定着

- ・朝の学習タイム（本校では「ばっちりタイム」と呼ぶ）では、月・水・金は計算問題や漢字練習、学習したことの復習など、基礎的・基本的な学習の定着をめざす。また、火と木は読書とし、読書力の向上をめざす。読んだ本の感想を書く。
- ・漢字、計算週間を学期ごとに設けて定着の様子を把握し、指導に生かす。
- ・個々の児童に対しての補充学習や発展学習は、授業時間内や課外で行い、確実な知識・技能の定着をめざす。

## ③ 学習環境の整備

- ・日常生活の中で数や量について触れたり考えたりできるように、学校内や教室の掲示を工夫する。

## ④ 認め合える学級づくり

- ・互いに聞き合い、話し合える人間関係づくりは、学び合いの学習を進めるための大きな支えである。道徳をはじめ、各教科、学級活動、総合的な学習の時間の中で取り組んでいく。

## (3) 家庭、保・小・中との連携

### ① 生活習慣の確立

- ・生活習慣づくりについて、「早寝、早起き、朝ごはん」をテーマに、食育の授業実践やPTA学級委員会と連携した取組を進める。

### ② 家庭との連携

- ・家庭学習、生活習慣の定着のために「家庭学習の手引き」を出し、保護者と連携して進める。
- ・自主学習は高学年で行い、学習の手引きを提示して取り組ませる。

### ③ 保・小・中との連携

- ・川北町の保育所・小学校・中学校と、児童生徒の交流や授業研究会、児童理解の会を持って情報交換をしながら研究を進める。

## (4) たちばな夢プラン

生涯をたくましく生きるための能力・態度の育成を図るために、各教科や総合的な学習の時間、道徳の学習内容を整理し、意図的、継続的に計画を立て実施していく。この学習は、これまで算数科を中心につけた、思考力や判断力、表現力を実生活に生かす場となる。さらに、将来を担う子どもたちに勤労観・職業観を身につけさせるキャリア教育に結びつくものと考えられる。

今年度は人間関係形成能力・将来設計能力に重点を置き、以下の3領域で学習活動を進める。また、町教委とも連携し、体験活動の参加を奨励する。

### ① 人間関係づくり

- ・各学年の児童の段階に応じた、構成的エンカウンターを計画的に行う。
- ・全校の縦割り集団「はげましグループ」による活動を行う。

### ② いきいき体験学習

- ・栽培活動や、調べ学習での体験活動を重視する。
- ・音楽鑑賞会を行う。
- ・低中高のそれぞれの段階に応じて手取川学習を行う。

### ③ 生き方学習

- ・町の先生をはじめとするゲストティーチャーを招き、ふれあい、生き方を学ぶ機会を設ける。

### ④ 町教委との連携

- ・町教育委員会主催の体験教室の積極的な参加を呼びかけ、保護者にも協力を求める。